

第19回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 令和5年8月10日（木） 15時00分～16時00分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】 1. 当院の概況等について
2. 自由討議
- 【出席者】 宗宮 優 （医師会／可児医師会長）
久保田 芳則（行政・県／可茂保健所長）
梅田 浩二 （行政・市／可児市こども健康部長）
村瀬 孝彦 （利用者／自治会副会長）
梶田 泰一 （院長）
伊藤 貴彦 （副院長）
後藤 信二 （事務長）
近藤 清典 （看護部長）
樋口 直哉 （総務企画課事務長補佐）

【議事録】

○議題1

当院の状況等について（パワーポイントを使用し、概要、財務経営状況、患者数について説明）

○議題2

- ・外来担当医の先生方の専門分野（サブスペシャリティ分野）
- ・新型コロナウイルスの感染状況
- ・外科手術について

【梶田院長】

事前に頂いたご質問は3つございますが、順番に進めてまいります。

1点目外来担当医の先生方の専門分野について、これは専門分野がわかりづらいということかと思われまます。宗宮先生からいただいておりますが宗宮先生いかがでしょうか。

【宗宮可児医師会長】

整形外科に関しては外来診療担当表に専門分野が書かれておりますし、内科についても専門分野が分かれておりわかりやすいのですが、他の診療科、例えば泌尿器科であれば、女性泌尿器を専門でやっておられるとか、腎臓内科がないので腎臓系を専門でやっておられるとか紹介状を患者さんに渡して受診してもらった際に、その専門分野の先生は別の日になるからまたその後日来てくださいということにならないように、専門分野

がわかるようにしていただきたい。ホームページ等でも結構ですので掲載していただくとありがたいと思っています。なかなか詳細にはできないかと思いますが、専門分野以外でも医師の経歴等を紹介していただくと良いのではないかと考えております。

【梶田院長】

ありがとうございます。先生のおっしゃるとおり、ホームページが少し貧弱といいましょうか診療科の医師の紹介が不十分かと考えております。例えば外科でいえば池山先生が毎日外来を行っておりますが、池山先生の専門分野がわからないかと思っております。

ホームページの診療科のページについて、ボリュームの大小が診療科によって異なっているため、フォーマットをそろえて情報を提供していきたいと提案しております。ホームページをリニューアルすることで解決できると考えております。

では2点目新型コロナウイルスの感染状況について、伊藤副院長お願いします。

【伊藤副院長】

感染状況は簡単にいうとピークをうっておりませんので、これからお盆になるところで、また新たな変異株が増えており外来が毎日大変な状況です。入院は重症化される方がほぼいないので、入院される方は独居の方や老々で家にいられない方が主体となっております。病院側として、まだまだ皆様に注意を喚起していきたいと考えております。

【久保田可茂保健所長】

まさに感染状況については特にこの可児市、美濃加茂市の感染者が多く、伊藤先生もおっしゃられたように感染者数は高止まりしております。入院患者は重症の方は多くない状況でコロナの病床は空きがある状態です。ただ、介護が必要な高齢の感染者の方で脱水等の影響により入院しなければならない人を、可児とうのう病院や中部国際医療センターが多く受け入れることになると、本当に全身管理をしなくてはいけない方が入院できなくなるのは地域の方が困ります。来週19日に、可児とうのう病院が診療報酬に係る感染加算のカンファレンスを開催されます。可茂保健所管内の医師会の先生、病院、高齢福祉施設の方が参加されるので、その中で保健所より、開業医の先生方にはなるべくかかりつけの患者さんは自院で見ていただいて、重症化した場合は可児とうのう病院、中部国際医療センター等へ転送する。可児とうのう病院、中部国際医療センター等については状態が落ち着いた患者を速やかに開業医さんに返していただくという流れを、意思統一というか確認のために説明したいと考えています。

もうひとつ高齢福祉施設でも集団感染が報告されており、感染状況は収まってはいるのですが、重症化すれば入院が必要になります。コロナだからすぐ入院ということではなく、できる限り持ち堪えていただくといったことを含めて、担当の可茂県事務所高齢福祉課がカンファレンスにて説明することになっております。

【梶田院長】

ありがとうございました。次に3点目外科手術について私から説明いたします。

私も4月に赴任してきまして開業医の皆様にご挨拶に伺いますと、外科手術について関心をもっておられると感じました。過去のデータを見ますと5年前までは外科の常勤の医師が6名程おりましたが、4年前に急遽人数が減り常勤医師が2名になりました。外科はチームで対応するので常勤の医師が1名とか2名になってしまうと、専門的な手術はできない状況になります。

私は脳外科医で、先日一人で行える簡単な手術を行ったのですが、当院の手術室の設備は素晴らしく、また看護師等のスタッフも非常に優秀だと感じ、非常にもったいないと感じました。

200床近くある病院で外科がなくなるのは私としても理解しかねるが、前任の岸田先生もご尽力されましたが現在の状況となっております。私としては、岸田先生が大変ご苦労されたことが私にできるかどうかわかりませんが、何とかしたいと思っております。やはり外科医師がチームとしていないのは当院のウィークポイントだと思いますし、過去の患者数、経営の面から見ても外科医師がいなくなったことが影響しております。逆に言えば、外科医師を確保できれば再浮上できるというわかりやすい図式が見えております。ただ外科医師は全国でも少ないのですぐに確約できる状況ではありません。

医師会の先生方の中で外科医として当院に勤務していただける先生が周りにおられましたら、私がリクルートいたしますのでご紹介いただければと思います。

当院の外科手術の現状は、常勤の医師が池山先生一人なので一人でも対応できる中心静脈のポートを入れるという手術といいますか処置は行ってはおりますが、専門的な外科手術は行っていないという状況です。

ご心配をお掛けして非常に恐縮なのですこのような回答になりますがよろしかったでしょうか。

【村瀬副自治会長】

私も4年前に外科の手術をしなければならなかったが、別の病院へ紹介されました。地元の住民、友人からも私と同じように可児とうのう病院では外科手術ができないので別の病院へ紹介されていると聞いております。何とか外科先生を増やしていただいて手術ができるようにしていただけたらと思っております。

【梶田院長】

ご意見ありがとうございます。あらゆる手を使って努力しておりますが、見通しが立ちますとは申し上げられないのが甚だ残念ですが、そういった状況です。

【宗宮可児医師会長】

外科の池山先生が開業されるとお聞きしておりますが、退職された後の外来等は非常勤の先生で対応されて外科は存続するというところでよろしいでしょうか。

【梶田院長】

まだはっきりと申し上げられないのですが、常勤医師を第一候補として色々と手を尽くしてリクルートをしております。やはり非常勤の医師だけでは、片肺飛行のようなものなので、常勤医を少なくとも1名、できればチームとして確保できるよう考えております。

【宗宮可児医師会長】

医師確保については岸田先生、梶田先生もご尽力されておられると思いますが、外科の医師がいないと、先ほどお話があったように手術適用の患者さんは他の病院へ転院となりますでしょうし、救急隊でも現在対応してもらっていると思いますが、高度外傷で、臓器損傷があるかもしれない方の搬送を可児とうのう病院に搬送できないということで、救急隊の方も大変だと思いますので、引き続き外科医師の確保と存続をよろしくお願いいたします。

【梶田院長】

ありがとうございます。努力を続けていきたいと思っております。外科手術については皆様にご迷惑をおかけしているのは重々承知しておりますがそういった状況になります。

他に事務長の概況説明、私が話したこと等、何かご質問、コメントをいただけますと大変参考になりますのでいかがでしょうか。

【梅田可児市こども健康部長】

代理出席で申し訳ございませんが、医師不足ということは私共も承知しておりますし、どういった支援ができるのか病院と一緒に考えていかないといけないと思っております。また議会からも救急医療体制等について話が出ています。また事務長の概況説明にありました寄付講座について、私はなんとなく承知しておりますが、地域の方はどういったものなのかご紹介いただける、詳しくご説明いただけるとありがたいです。

【梶田院長】

寄付講座については、私が岸田先生からの申し送りで理解しているのは、糖尿病代謝の講座に寄付講座が作れないかということで、岸田先生が愛知医科大学の糖尿病代謝の講座に働きかけをし、私も先々月に担当の講座の教授にお会いして話をしてみました。具体的は話が私もまだ見えておりませんが、糖尿病代謝は高齢者の中で大事な疾患となりますので、地域で治療を行っていくことは大事なポイントであります。

私の理解で寄付講座を大学が開くということは、ミッションや役割、大学にとっても人的資源、そういったところがあらかじめ大学の講座と話を煮詰めなければならなりません。また寄付講座ですから、それなりの費用等が出てきますでしょうから、そのあたりを具体的に可児市に相談させていただければと思います。

私の頭の中での話になりますが、今後のスケジュールの段取りがわかっておりませんが、先方とも寄付講座を作るという大まかな合意は、岸田先生が汗をかかれて、私も挨拶して得ておりますので、今後大学と話を煮詰まったところで具体的なお相談させていただければと思います。そういった形でよろしかったでしょうか。それとも最初の段階で一緒に話を進めたほうがよろしいでしょうか。

【梅田可児市こども健康部長】

ありがとうございます。どちらかというと言付講座がどういったものなのか、地域の方が承知されておられないと思いますので、どういったものか説明をいただけるとありがたいのですが、

当然今後の具体的な話については私共もいろいろと詰めさせていただくこととなります。寄付講座というもの自体が名前だけだとわかりにくいので、どういった制度なのか仕組みなのかご説明いただきたいです。

【梶田院長】

わかりました。一般的な寄付講座というのは、大学の講座である以上、いろいろな教育、学問ということが必須ですから、大学も教官が必要ですしポストを用意し人材を確保しなければなりません。その講座に入り勉強するスタッフが増えてきた際に、その講座のスタッフの中からミッションとして可児市に来ていただいて糖尿病について勉強していただく、そして可児市の地域医療、糖尿病に関心、興味をもっていただいたのであれば、その後も当院の常勤医師として勤務していただいて、若い医師を増やしていくというロードマップとなります。最終的には医師の確保が一つゴールとなります。単にお金を大学の講座に入れたら誰か医師を派遣してもらえというわけではなく、講座である以上教育、研究が関わってくるのでそういうスタイルになるのではないかと思います。長い道のりとなりますが行政の方とタイアップしてさらに話を進んでいけたらと考えております。このような説明でよろしいでしょうか。

【梅田可児市こども健康部長】

ありがとうございます。

【梶田院長】

少し時間がありますので、看護部長いかがでしょうか。せっかくの機会なのでお聞きしたいこととか、院外の方のご意見をいただくのは貴重ですのでいかがでしょうか。

【近藤看護部長】

去年から看護部長で赴任しております近藤と申します。看護部も医師不足と同様で看護師不足が続いており何とかギリギリで対応しております。

地域の方々に看護師の免許はもっているが働いていない方へのリクルートであったり、近隣の学校に出向いて新人の就職について斡旋のお願いをしたり、就職ガイダンスがあれば積極的に参加しながらリクルートを進めている状況ですが、看護師も不足している状況です。看護師はほぼ女性の職場となっているので、当然結婚、妊娠、出産が付き物となります。出産後1年から3年の育児休業を取得して、当院に籍はあるものの家庭で子育てに専念している職員を抱えている状況であります。そういったところを踏まえて人員不足となっております。地域の方々には職場、ご家庭、ご近所等に看護師の免許を持っているが働いていない方がいらっしゃいましたらご紹介いただくとありがたいと思っております。当院としても教育体制をしっかりと整えながら対応していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】

最後に次回の開催ですが、例年8月と2月に開催をしておりますので次回は2月に開催をさせていただきます。また日程が近づきましたら当院よりご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

【梶田院長】

では2月には何か良い話ができればと思いますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。本日は暑い中ご出席いただきありがとうございました。

(終了 16:00)